

# 留 学 報 告 書

平成 5年 12月 1日

学 部 法文学部 学科・課程 言語文化学科

氏 名 H.K

1. 留学先大学・学部 国名 フランス

大学名 オルレアン大学

現地到着日 ( 2022 年 8月 27日) 授業開始日 ( 2022 年 9 月7日)

現地出発日 ( 2023年 5月 12日) 授業終了日 ( 2023 年 4月 28日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

パスポート、ビザをとる

留学先とやり取りをして必要な手続きをする

お金を貯める

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

路面電車 所要時間は30分程度

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

大学にはサポートセンターのような場所があるのでわからない手続きがあったらそこに行って一緒に手続きをした。あとは友達やホストファミリーに聞いてやった。自分で政府機関に行って手続きをすることもあった。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションはみんなで講堂に集まって授業の内容や学校生活の説明を受けた。レベル分けテストもその日に行い、テストは全員が同じものを受け、その結果によってクラスが分けられた。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業の進め方は先生によって大きく異なっていたが、大体は指定の教科書を購入し、それに沿って授業を進めていた。学期中のテストは担当の先生が作成し、難易度も先生によって違っていた。しかし内容は授業をきちんと受けて理解していれば解けるものであった。期末試験はDELF（英語でいうTOEICのようなフランス語の試験）の形式で、授業の内容ではあまり関係なく、実力問題のようなテストだった。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

社会と文化に関する授業が一番面白かった。フランスと日本の社会を比較できるし、地元の歴史も細かく学べてすごくよかった。学んだことを実際に見ることができ、現地ではできない体験をすることができた。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

オルレアン大学の留学生の多くが寮に住んでいた。学校から近いし安いので学生にとってはいいと思うが、個人的には寮よりもホームステイを勧めたい。せっかくフランスに留学するなら、現地の家庭料理やクリスマスの過ごし方などを身をもって体験したほうがいいと思う。フランス語の勉強にもなるし、留学先で家族のように支えてくれる存在がいたのはとても心強かった。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、  
(いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等)

寮の生活はあまりわからないが、ホームステイでは家族の意思を尊重しながらも、納得できない部分はこちらも意見する、といったコミュニケーションが欠かせない。ホストファミリーがいい意味で放任主義だったし、ご飯もおいしかったので特に困ったことはなかった。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)  
ホストマザーが教えてくれた家の近くにある銀行で口座を開いた。その銀行を選んだ理由などはない。カードの利用が主だった。カードはキャッシュパスポートというものを使用していた。日本にいる親がキャッシュパスポートに入金してくれて、それを現地で使っていた。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

私が通っていたフランス語学院はそこまで大きくないので、事務室に行けば大体のことは解決する。また日本語を話せるフランス人のスタッフもいたので重大な何か起きた時はその人に相談していた。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

オルレアンOrléansの繁華街に行けばショッピングモールも小さなお店もたくさんあるので買い物に困ることはなかった。しかし日曜日になると基本的にどこも閉まっているので日曜日は外出してもあまり楽しくない。レストランもたくさんありアジア料理を扱う店もたくさんあった。美容院は、私は一度も利用してないが、友達曰く、値段が高いばかりでヘタクソだと言っていた。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

ホストファザーの誕生日会があって、その時に現在パリで働いている娘さんと息子さんが来て、盛り上がりすぎてお酒を飲みすぎてしまったこと。特に問題は起こさなかったけど結構キツイ二日酔いになった。その時は自宅でやっていたからよかったけど、外で同じようなことがあったら、フランスは治安も悪いので、ただでは済まないだろうから気を付けようとその時に心に決めた。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

特に大きな病気にならなかったのもわからない。ただ、保険は留学前に国際交流課の方と話して、留学中に使える保険に入った。

15. お世話になった方々

国際交流課の方々、研究室の先生、ホストファミリー、留学先での先生方、フランスで出会った友達

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

ヨーロッパはほとんど行った。ドイツ、スペイン、ベルギー、オランダ、イタリア。早めに予約をして5000円くらいで夜行バスをとってそれで旅行していた。費用はその国の物価、旅行期間にもよるが2～3万円だったと思う。バスはFLIX BUSというものをいつも利用していた。

17. 気候と服装について

冬は乾燥していて島根よりも寒く感じた。夏はとっても日が長い冬は16時頃には真っ暗になっていた。  
服装は夏も冬も基本的に日本にいる時と変わらなかった。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

薬は持って行った方がいい。現地に行ってから、食べ物が合わなくておなかを崩したり、気候の関係で肌が荒れたりするので、安心して使える薬は持っていくべき。それと、特にホームステイの場合は日本食が恋しくなるので好きなお菓子や食べ物は持っていくといい。あと、公的な手続きの時に出生証明書が必要になり、日本にいる親に取得してもらったが、すごく面倒くさかったので、日本でとれる書類はなるべく取っておいた方がいいかもしれない。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

特になかった。今は本よりもネットの方が最新な情報を得られるのでわからないときはネットで調べていた。

20. ホームステイの依頼方法

留学先の大学への登録の際にホームステイを希望していることを伝えたら、大学側が手配してくれた。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往)	<u>45万</u>	円,	(復)	<u>28万</u>	円
2) 準備費用					<u>5万</u>	円
3) 大学へ納入する費用				特になし(島大の授業料)		円
授業料(年間合計)				<u>約18万(島大の授業料)</u>		円
保険等その他の費用					<u>3万</u>	円
4) 住居費(光熱費等含む)					<u>60万</u>	円
5) 衣服代, その他雑費					<u>10万</u>	円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等					<u>2万</u>	円
7) 留学先国内旅行費用					<u>20万</u>	円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額					<u>191万</u>	円
現地通貨	<u>ユーロ</u>		日本円換算(レート)		<u>161</u>	円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

もって帰れない荷物は友達にあげたり、売ったりして、すべてキャリーケースに詰めた。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

留学をしてフランス語力や知見が広がったのはもちろんだが、私が留学して一番学べたことは「人に感謝する」ということ。留学前、留学中、周りの人の支えがなければできなかつたことがたくさんあつた。困ったときに助けてくれる先生や家族、友達がいてくれたから充実した留學生活を送ることができた。フランスで多くの留學生と出会い、自分の環境が恵まれていて、日本に生まれたことがどれほど幸せなことだったのかということを知ることができた。これは別にほかの国を悪く言っているのではなく、実際、治安が悪くてフランスに逃げてきた人たちや、自分の国が貧しくて生きていけないから仕方なくフランスに移住してきた人たちが多くいた。その中で自分は、フランス語を学びたい、という思いでフランスに行くことができ、大学も親もバックで支えてくれていて、自分の好きなことを思い切って出来ていた。そういった環境が当たり前ではないということに留学して初めて気が付いた。そして自分の環境、その環境を支えてくれている人たちへの感謝ができるようになった。留学を経て得られたこのことは、これからも大事にしていきたい。